

## ロータリークラブとは？

(以下の内容は[川崎南ロータリークラブ](#)様のページを参考に作成させていただいております)

### 一言でいうと・・・

親睦を通じて生まれたエネルギーをもって、「他人に対する思いやりの心」を奉仕の規範とし、「他人のために尽くそう」と努力している団体です。

### はじめに「親睦」あり

ロータリークラブは、多くの友人を作り、会員相互の親睦を第一義とした団体です。

異業種交流の場でもあります。心の許せる友と語り合い、学びあい、信頼を深め、職業に有益な情報を交換するのです。

### 「奉仕」のめばえ

善意あふれる会員相互の親睦と信頼は高揚し、親睦活動を通して生まれたエネルギーは世のため、人のためへの奉仕の心を芽生えさせ、奉仕の心の実践へと広がります。

ロータリークラブは数多くの奉仕活動を経験しておりますが、本来は寄付団体でも慈善団体でもありません。

### 「私は奉仕する (I Serve) 職場で、社会に、世界に」

ロータリークラブの奉仕活動は原則として会員一人ひとりを単位として、自らの意志で参加していくことが基本となっています。

また、一方では、クラブ単位あるいは、全てのロータリークラブがまとまって行う奉仕活動も行われています。

ロータリアンの奉仕活動は各人の職業を通じて、家庭生活・社会生活を通して実践されます。

すなわち、職業上では社員や関係先に満足が与えられるようにと心を配ります。

また、地域社会の弱者への手助けをしたり、国際社会では飢餓の救済や疫病の撲滅、奨学生の交換や派遣などをしたり具体的な成果は数多くみられます。

## ロータリークラブの例会場では

名寄ロータリークラブの例会は、毎週火曜日にグランドホテル藤花で行われ、昼食会として1時間(12:30~13:30)開催されます。

会員は、この例会に出席する権利と義務があります。クラブの例会に欠席した場合には、その例会日の前後2週間の間に他のクラブの例会に出席し、その代わりとして補填することが出来ます。

メイクアップと称し、近隣でも、国内・海外どこのクラブにも出席する権利があるのです。

例会の前半は、会長挨拶のあと食事を頂きます。

例会の後半は、クラブの連絡事項や報告を聞き、多彩なゲストスピーカーによる卓話の時間になります。珍しい事柄、新しい情報に耳を傾ける楽しい時間です。

毎月最終例会日を夜間例会とし、時には家族親睦会など多岐にわたるプログラムが企画されます。

同好会では、ゴルフやノルディック・ウォーキングを通じての親睦が図られます。

会員はロータリーの中に特定の政党、宗教など主義主張を持ち込むことは厳禁とされています。

## 会員はすべて平等に。費用は全員均等分担

ロータリークラブの運営は会員全員で行います。

「ひとりの英雄も、一人の非協力者もない」ことが最も好ましいとされます。

会員はすべて平等の立場で、同じ権利とされています。

ロータリークラブの役員はすべて1年の任期で交代します。

例会費、事務局経費、運営費など運営に係る一切の経費(一般会計)は、会員全員で均等に負担します。どこからも助成金のような資金はいただいておりません。

しかも、拠出していただいた会費等の大半はご自分のための経費(食事代など)ですから、ロータリアンであることの素晴らしさを考えるとき、有意義で上手なお金の使い方と感ずることでしょう。

## ロータリアンのよここび

多くの友人を作ることが出来ます。

社会を明るくする多くの奉仕活動に参加することが出来ます。

そして、私たちの奉仕活動が地域社会の人々の共感を得て奉仕の輪が広がります。

この喜びこそが最高の生き甲斐であり誇りなのです。

最後に、再び「ロータリーとは何か」の解答として、次のように考えては如何でしょうか？

ロータリーは思いやりのある平和な社会作りを目指しています。

このような社会の改良に奉仕するものはロータリアン一人ひとりです。

ロータリアン自身の心の改善、すなわち奉仕の心の涵養は、ロータリークラブの例会の親睦を通して助長されるものです。

したがって、ロータリーにあっては教師がいません。ロータリアン全員が教師であり、また全員が生徒です。つまり、ロータリーは自己を教育する場なのです。

**「例会場に入りて学び、例会場を出でて奉仕せよ」**といわれる所以です。

是非、例会へ見学においで下さい。お待ちしております。

※「入りて学び 出でて奉仕せよ」 … この「Enter to learn, go forth to serve」はもともとアメリカユタ州にあるブリガムヤング大学が標語として使っていたようですが、ロータリーでは1947年S. ケンドリック・ガーンジーが会長の時にRI テーマとされ、国際協議会での非公式標語として使い始めたもので、現在でも国際協議会に行くと入口に掲げられているものです。